

---

# 片翼の翼

ちっぽけたまご

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

片翼の翼

### 【Nコード】

N54640

### 【作者名】

ちっぽけたまご

### 【あらすじ】

唯の死に涙を流す相原と響。試練はー母親だった。次々と分かるシンジツに相原は怒りをぶつける。そして、相原の言葉と唯の想いの結びつきで、奇跡が起こるー。最終回見逃さず！

(前書き)

最終回です

最後までご覧ください。

片翼の翼が欲しい。ずっと前からそう思っていた。

、、独りぼつちの生活がイヤだった。．．実を言つと小さい頃、両親に会うために翼を手に入れて両親の元へ行く．．。

唯は交通事故で死んだ。

唯．．翼は手に入れた??ごめん。守れなくて。

いつの間にか唯だけが信じれる様になつて来てから何故か予感がしていたのに。

それを俺は無視した。弱っている小鳥を見捨てたかの様に。

でもさ、変だと思わないか?見捨てた俺なんかが言う事でもないのかもしれないけど．．、

唯の死に目に母親がいなんだぞ．．．??

俺の両親は交通事故で死んだから．．。別だけどな。唯は新しいおかあさんがいるんだろ??

笑顔でおかあさんの事を一杯話してたじゃないか。その母親が来なかったんだぞ?

走りながら心の中で言いに問いかける。

「なあ、雄斗<sup>ゆうと</sup>．．．どうした?おかしいぞ。急に唯に合いたくなつたのか?」

「いや．．。おかしいことが．．あつてね。唯の死に目に唯の母親が来なかった。唯は両親がいるって言つてたし。」

「．．．ツ。おかしいなそれ。」

「．．．だろ?．．．。」

さつきよりスピードを上げて走る。横っ腹が痛くなつてきやがった。響きもダウンし始めてる。

でも、いつもきていたせいかな病院の前で脚が自然と止まった。響きが俺の方に手を寄せ、息をゼーハーとしている。

「行くぞ。響。」

「あ．．．おう。」

この真っ白い廊下に1つ小さな花束が置いてあった。唯の部屋だ。何故置いてあるんだろう。

コンコンとドアノックをする。

「はい。どうぞ。」

きれいな声の人．．女だ。聞いた事がある声だった。でも、誰の声だか分からなかった。

ガラスと開ける俺の手は．．．瞬間的に震えていた。響も同じく．．小刻みに驚いた顔をして震えていた。

「．．．．．か．．．．．かあさん．．．．。」

真っ白で真っ黒な空気。なんだこの空気は。

沈黙が続いている。俺と響は顔を観合わせた。

「雄斗．．．。」

母さんの声だった。

大好きだった．．母さん

いつも一緒だった母さん

仲良しだった．．母さん

いまも．．．母さん

唯の．．．母さんか？

嘘だろ？．．．母さん

お　か　あ　さ　ん

頭をよぎる。背中が震えている。

やっと合えたのに。唯の母親??

ふざけるな。俺の母親・・・いや、誰のでもない母親だ。

母さんは少しずつ話し始める。

「本当は、母さんとお父さんは交通事故って言ったけど、交通事故ではないの。お父さんは自ら自殺して亡くなったわ。おかあさんはそのショックであなたを施設に預けた。いや、親戚のお家・・・に預けたわ。施設に預けてくれと言ったけど途中までは親戚のお家で生活をしたそうね。雄斗。でも、施設に預けた。なぜかって？母さんが勝手にそうしたの。『唯のおかあさん』になってからお引越をしてその引越先を施設の横にしたわ。少しでも雄斗の近くに居たかった。でも、雄斗は人間を嫌い始めた。もう諦めて・・・と思ったら唯と雄斗が付き合い始めて。諦めなくなった。

そして・・・私はストレスと八つ当たりが混ざり合い分けが分からなくなつて離婚を決意し、もうひとりになりたかったから唯・・・この子を殺した。いや、事故・・・ひいたわ。唯を。」

「最低だ。そんな母さんじゃなかった筈だよ。母さん達が俺に下した闇を解いてくれた。それが唯なんだよ！！！！母さんは唯を殺した。俺の光を殺した。最低な人間だ。もう、全滅だ。母さん、俺も翼が欲しい。さよなら。ココで合うのが最後だ。バイバイ。母さん。」

「雄・・・斗・・・。おい・・・。いいのか、本当に。」

「ああ、お前も元気にしてるよ。ココで最後だ。お前・・・貧乏だつったよな。これと俺ん家やるよ。あのマンションも。全部。宝物も。だけど、これは残しといてくれ。翼と青空と光。・・・それとお前な。」

「え・・・・・・・・・・。」

母さんが出て行った。

「母さんも俺の宝物を取りに行つたみたいだな。バイバイ響。おれは翼を取りに行く。帰つて来るから。待つてくれ。」

唯の方に両手を乗せる。響は観ていたため、席を外す様に言った。

「分かった。何でこんな事をするのか分からないけど・・・幸せになれよ。」

「おう。」

響は出て行った。静かだ。

「唯・・・今そっちへ行くよ。唯の唇を貰ったら。」

顔を近づける。唇が重なったとき、新たな光が俺たちを包み込んで俺たちは1つになった。

\* エ ピ ロ ー グ \*

白い雲の上でいつも一緒にいる。

「ねえ。雄斗。」

「なんだよ、唯。」

抱きしめながら言う俺にギュッと手をかざす唯。

「ずっと一緒だよね。」

「ずっと一緒だぞ。」

「何があつても」

言葉がハモった。

俺が翼で唯が・・・天使あらし

俺は、片翼の翼から本当の翼を手に入れた。1つのかけらが二つになつたから。

唯と俺は見事にパートナーとして結婚をした。

もちろん天国で。いや・・・ココは天国ではなく、俺と唯の幸せの国だ。

結婚式場は隣町にあつた。もちろんすべて雲でできている。綺麗な待ちでゴミが地理1つない。

下を見れば、響が元気よく登校している。

・・・あれは・・・？彼女か。

「響くん・・・彼女で来たのかなあ？」

唯が言った。

「そうだな。響モテるもんな。」

ありがとう響。

ありがとう唯。

ありがとうクラスのみんな・学校のみんな。

ありがとう施設の先生・一緒だったみんな。

ありがとう友達。

・・・そして

ありがとう俺を産んでくれた母さん父さん。

酷い事言いまくったけど、今思えば感謝してる。

唯と雲の布団をかぶり、眠りにつく。

「おやすみ唯」

「おやすみ雄斗」

おやすみ、今日とみんな。

おやすみ

(後書き)

ありがとうございました。

ちよつと分からなかったかも知れませんが、今後ともよろしく願  
いします。

PS 次回は短編小説です。是非観て下さい。

ちっぽけたまごよ

り

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5464o/>

---

片翼の翼

2010年10月28日00時38分発行